

TPM パルス励磁型 J-H カーブトレーサ 製品資料

東英工業株式会社





TPM

パルス励磁型 J-H カーブトレーサ

希土類磁石の Js、Jr、Hcb、Hcj、(BH)max、Hk および SR 等の磁気特性の評価が行えます。

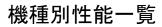
室温測定型



試料温度可変測定型

高保持力磁石の熱磁気特性の測定が可能。







| モデル名 | 測定磁界(T) | 試料室径(mm) | 試料温度(°C) |
|---------------|---------|----------|----------|
| TPM-1-15s10RT | 15 | 10 | 室温 |
| TPM-2-10s70RT | 10 | 70 | 室温 |
| TPM-2-10s10RT | 10 | 10 | 室温 |
| TPM-2-08s25RT | 8 | 25 | 室温 |
| TPM-2-08s25VT | 8 | 25 | 室温 |
| | 8 | 10 | 室温~200 |
| TPM-2-15s25VT | 15 | 25 | 室温 |
| | 15 | 10 | 室温~200 |



試料の室温測定での長所

- 測定磁界 150kOe,磁界発生コイル重量 20kg
- ・J検出信号の異常減衰なし
- 測定磁束密度約 20kG 以下の制約なし。試料の圧壊なし。
- ・ 測定試料最大 φ 70mm(100KOe)L50mm を 100kOe で可能
- 着磁率測定が容易に可能
- Ni 薄板積層試料による J 軸校正が可能。測定磁界 80kOe, 試料温度可変;室温~200℃

試料の温度可変測定での特長

- ・ 測定磁界 80kOe,試料温度可変;室温~200℃ 試料温度可変時でも J コイル& H コイル温度は室温を保持できるため、高温各温度でのバックグラウンド測定が不要で完全な自動測定が可能。
- ・ 温度可変測定での試料寸法: 7.0mm 立方体
- 電磁石型 J-Hトレーサのように各温度測定毎の外部着磁必要なし
- 複数任意温度を選択し、自動温度可変して自動磁気特性測定可能
- ・ 電磁石型 J-Hトレーサのように第二象限減磁曲線のみでなく、第 1・2・3・4 象限の全磁化履歴曲線測定が可能
- 第1象限 2MA/m(25kOe)以上の飽和磁化曲線の温度依存性測定等が可能



測定解析での注意点

- ・パルス磁界波形によっては試料渦電流による表皮効果の影響があるため、補正が必要 (実測試料自体の飽和磁気特性曲線から補正量を策定する単純明解な補正方法は IEC/TC68; WG2 に報告済み)
- 反磁界補正が必要 (既に VSM で実績は豊富)
- ・ J 軸は試料の体積で Gain 決定

(特に直方体 3 辺長さが微妙に異なる試料は検量線による補正パターンも膨大となるため、ISO-9000 による校正済み DC JHトレーサで測定した Br 値でパルス JHトレーサの J 軸を校正する方法が多く用いられています。)

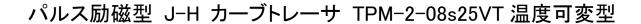
(DC JHトレーサの J 軸 Gain は試料断面積で決定するので試料体積を用いるパルス JHトレーサより簡単)

パルス励磁型 J-H カーブトレーサ(TPM-2-08&10)の世界的な規格化作業とその動向

社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)及び IEC/TC68 国内委員会では、2007 年 10 月上海及び 2008 年 9 月イギリス カーデフで開催された IEC/TC68 会議に日立金属(株) 山本日登志/徳永雅亮、東英工業(株) 有泉豊徳らをWG2(磁気測定法)及び WG5(永久磁石材料)会議に出席させ、パルス J-H 磁気測定と直流磁気測定の回送試験を中国・日本・イギリス・ドイツ・ベルギー・イタリアで実施済みです。

日本での回送試料測定は2008年1月に、日立金属(株)と東英工業(株)にて実施終了済みです。

結果は IEC/TC68 会議で精査検討された後、パルス励磁型 J-H カーブトレーサ(IEC では PFM と呼称されています)は将来規格化される予定です。 国内では IEC での規格化に呼応して JIS-C2501 の更新改定時に規格化検討が予定されています。





高保磁力磁石 HcJ≥2MA/m(25kOe)の熱磁気特性の測定が可能。

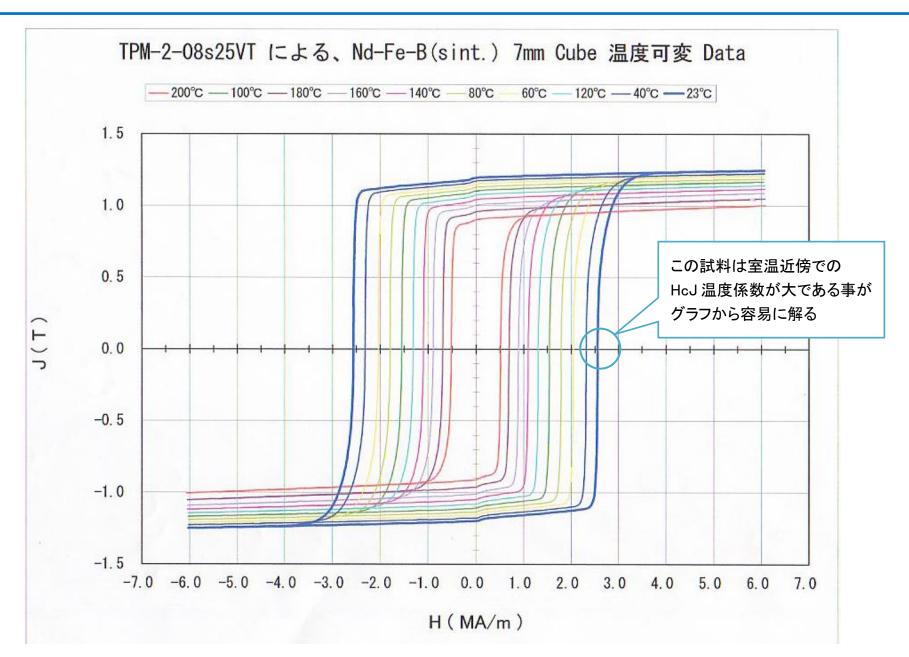


N,ガス発生装置 室内の空気からN,ガスを

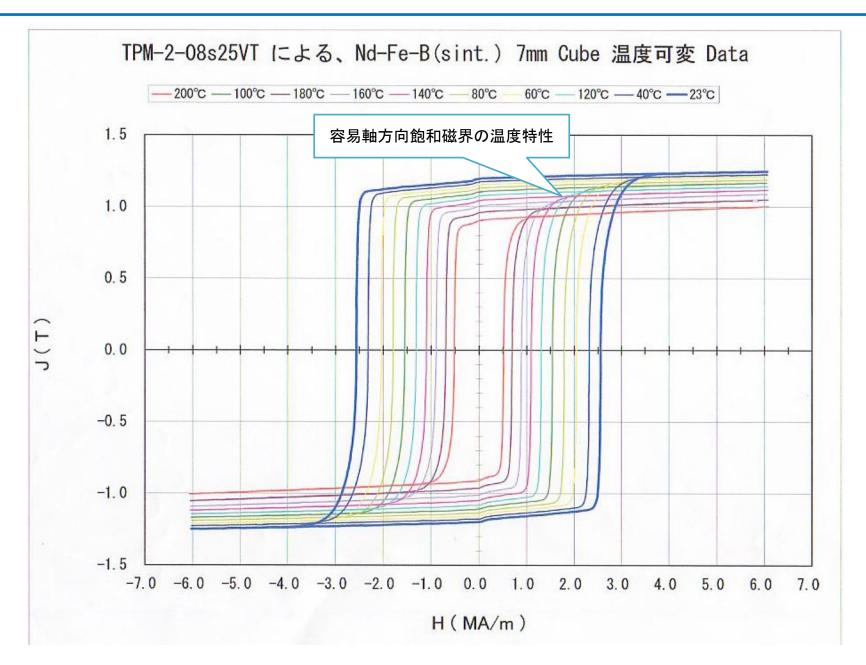
造ります。





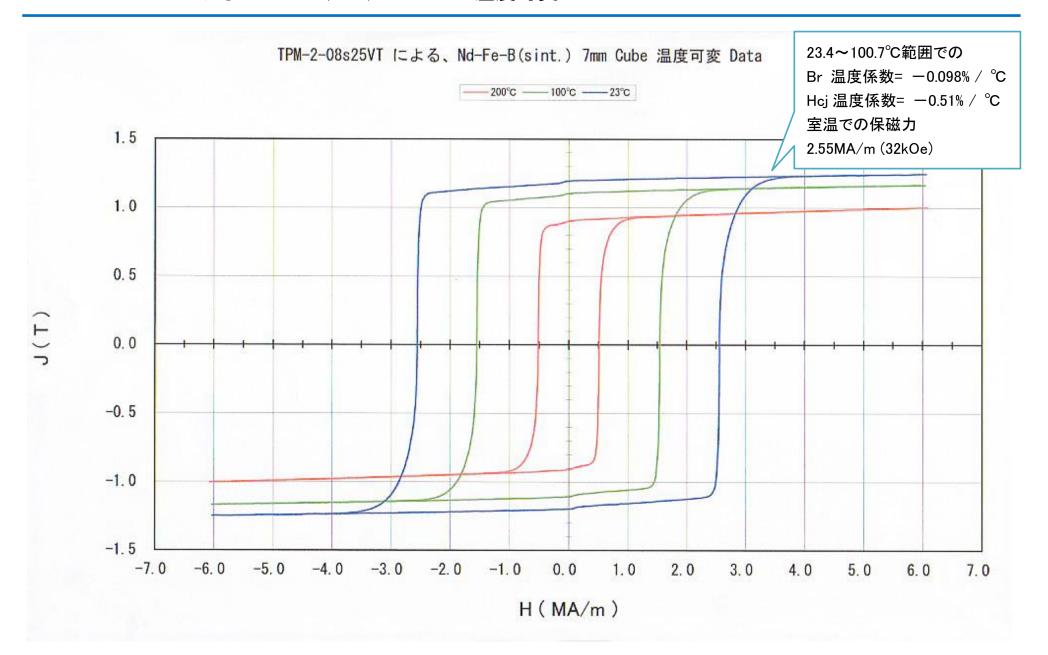








TPM-2-08s25VT による Nd-Fe-B(sint.)7mm Cube 温度可変 Data





TPM 装置と従来装置の測定範囲比較

パルス J-H トレーサ
Nd-Fe-B(sint)7x7x7mm 試料
空芯コイルで磁界を発生するので、
J 検出信号の異常減衰は発生しない。
150kOe 程度の磁界発生可能。

開磁路なので、反磁界の補正を必要と するのは VSM 装置と同様。



